



昨年11月15日(土)、JR東海が10月下旬から11月下旬に臨時列車として、週末の6日間のみ上下線で計11本運行した「飯田線秘境駅号」(以下秘境駅号)に乗車し、山間に点在する秘境駅を巡ってきました。秘境駅号は豊橋駅午前9時50分出発。車掌による沿線景勝地や停車駅を紹介する案内放送が車窓を眺める楽しさを演出し、鉄道マニアには有名な対岸に渡るようで渡らない「渡らずの鉄橋」と呼ばれるS字鉄橋では徐行運転。車掌の案内放送を聞きながら、いよいよ山間区間に入りました。

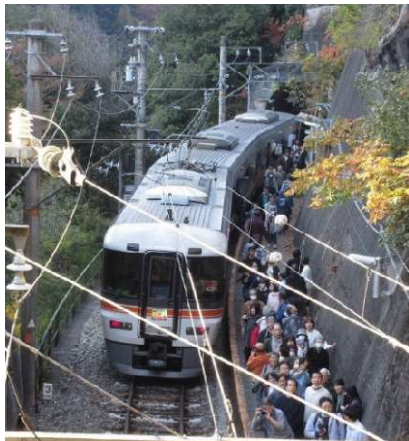
飯田線には全国秘境駅ランキング100位以内に入る駅が7駅あり、そのうちの4駅は10位以内の「超」が付く秘境駅。しかし、飯田線の山間区間には1日下り9本、上り8本しか普通列車が走っていないため、定期列車で秘境駅を巡るのは至難の業。秘境駅号はこれらの駅で数分から20分程度停車しながら走ることで、複数の秘境駅を一度に巡ることが出来るすばらしい列車でした。秘境駅の定義は、近くに集落のない「無人地帯」、「下界からの道なし」、「深い山中」、「断崖絶壁」などの各種評価項目があるようで、ランキング3位の「小和田(こわだ)駅」は無人地帯・古い木造駅舎・廃屋あり・集落までは山道1時間以上・落ちた吊橋など。同5位の「田本(たもと)駅」は無人地帯・断崖絶壁・集落まで徒歩20分の険しい急坂・山間の極狭立地。同6位の「金野(きんの)駅」は無人地帯・集落まで狭い屈曲路3km・山間の小駅・川の辺りの静かな雰囲気などが評価されているようでした。



秘境駅ランキング3位の「小和田(こわだ)駅」。古びた駅舎には珍しい静岡・愛知・長野3県の方向看板がありました。



水窪川にかかる「第六水窪橋梁」は対岸に渡るようで渡らないため「渡らずの鉄橋」と呼ばれる珍しい「S字鉄橋」。



秘境駅ランキング5位の「田本(たもと)駅」。
↓この道が駅から麓へ続く唯一のルート。



「下り」停車駅	出発時刻	停車時間	秘境駅ランキング
豊橋駅	9:50		
新城駅	10:42	約24分	
柿平駅★	11:15	約5分	174位
東栄駅	11:35	約10分	
大嵐駅	12:26	約16分	
小和田駅★	12:50	約20分	3位
中井侍駅★	13:04	約9分	10位
伊那小沢駅★	13:16	約8分	62位
平岡駅	13:56	約33分	
為栗駅★	14:15	約11分	13位
田本駅★	14:42	約17分	5位
金野駅★	15:00	約7分	6位
千代駅★	15:08	約6分	20位
天竜峡駅	15:14	約2分	
飯田駅	15:30着		

JR東海ニュースリリース資料の飯田線秘境駅号の停車駅案内。(★印が秘境駅)



秘境駅ランキング10位の「中井侍(なかいさむらい)駅」。1面のホーム以外は何もありませんでしたが、秘境駅感は抜群でした。

客ほぼ全員が下車。駅や周辺を散策して満喫していました。秘境駅号の種別は「急行」で、

途中の停車駅は少ないものの秘境駅を満喫するため停車時間が長く、飯田までの所要時間は5時間40分。車掌が「天龍村の大会」と紹介した平岡駅では後続の普通列車に追い抜かれ、終点飯田駅には午後3時30分に到着しました。今回は旅行会社のツアーを利用したので、添乗員同行で豊橋まで東海道新幹線「こだま」で移動し、「秘境駅オリジナル弁当」付き。そしてこれが最も重要なことなのですが、飯田からツアーが手配した専用バスに乗りして中津川に移

動し、中央西線「特急しなの」で名古屋に戻ってきました。個人参加で飯田から戻るのは、ほんとうに大変なのです。名古屋まで公共交通機関で戻る方法は主に2つ。1つは飯田線の上り列車に乗って再び豊橋に戻る方法と、もう1つは中央道特急バスで戻ってくる方法。どちらも都合よく走っていないため、飯田での時間調整が必須なのです。「飯田線秘境駅号」は、これ

ぞ秘境区間を走る真骨頂と思わせる列車で、乗車して本当によかったです。また、乗務員以外にJR東海の係員4名が乗車し、停車時間の案内や乗客の誘導にあたり、定時運行を支えてくれたことに感謝です。



Google マップにクチコミ投稿して、マップ上にこの日の足跡を残しておきました。